

# 新庄村(岡山県)

## 課題

- ・地域最大の課題は、次の世代(若年層)の「住み働く場」、「生計をたてるための仕事場」の不足である。
  - ・村内に高校以上の教育機関がないため、人口構成的に歪が生じている。特に10代後半から20代後半にかけての世代が少ない。
- ⇒課題解決にむけて、外部資本の誘致に頼れない社会情勢の中、内発的発展を促す仕掛けが必要である。

## 実現を目指していく地域のイメージ

- ・まずは、若者や村のファンによる、緩やかで継続的な流れとしての来村機会が定着していく。外の世界との“顔の見える付き合い”のネットワークが広がっていく。
- ・若者を中心に「自分の仕事は自分で創る」という生き方に気づき、「どうすれば、ビジネスを創れるか？」と産業振興の視点で地域資源を再発見していくようになる。
- ・そして村の内外の協力を得ながら、事業化への一步を踏み出す。

## 調査事業の概要

5つの取組を融合させながら、地域づくりにつなげていく。

### ①ムラゼミ(起業塾)

地域資源を新たな視点で見直し、コトおこし(=起業)のきっかけづくり。

### ②情報システム開発

村の暮らしをまるごと伝えるWEBサイトの作成。

### ③人の流れ開発

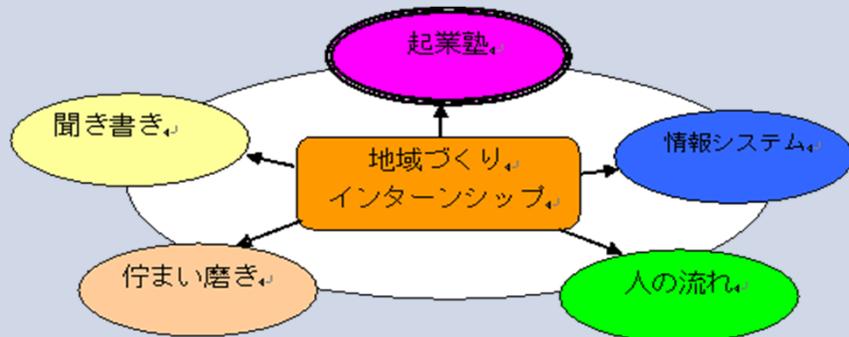
体験交流プログラムの企画立案と継続的な仕組み化。

### ④佇まい磨き

空き家活用の調査と事業計画づくり。

### ⑤聞き書き塾

暮らしの知恵と経験を次世代に伝える記録化と情報発信。



## 対応策の提示

<これまでのノウハウ、対応策>

- ・地元の大学との連携による単発的な「村体験ツアー」を実施。
  - ・地元若者を対象に「人づくり塾」を実施
- 上記の取り組みはあったが、相乗効果を生む仕掛けが欠けていた。
- ・「日本再発見塾」開催を通じ、新庄村の生活文化そのものが「体験交流」に活かせる地域資源であるとわかった。

<調査事業によりとりまとめたノウハウ、対応策>

本調査事業を通じ、村内参加と村外参加を融合させた起業塾開催の意義と必要性を確認できた。地域資源の調査を通じて、村に必要な今後のリーディング産業の方向性が発見できた。

起業家創出策として、「北風と太陽」的取り組みが有効であると確認できた。すなわち、すぐにノウハウ伝授の講義から開始するのではなく、村外若者と村内若者の交流を通じ、村内にも潜在的に起業してみたいと考えている人材を発掘することが先だと確認できた。さらに、交流を通じて起業をめざす地元人材を応援する機運・流れがインターンシップ塾生の中に生まれたことも成果である。

<今回の調査により得られた新たな課題>

成果を継続的に発展・成長させていくために、今後も「起業塾インターンシップ」を続けていく仕組みづくり。

また5つの取組がひとまず完了したことで、各取組成果をさらに有機に連結させて相乗効果をはかっていくことが課題である。